みおしえ

「花を摘むのに夢中になっている人を、死がさらっていくように、眠っている村を、洪水が押し流してゆく」（法句経四七　中村元訳参照）

この法は、仏がサーヴァッティーにおられたとき、洪水に流された軍隊と共に死んだヴィタトゥーバ瑠璃王について説かれた。彼はコーサラこくのパセナディー王の息子であったが、母親はシャカ族のマハーナーマ王と奴隷の女との娘であった彼はそのことを知らず母親の故郷カピラバーストゥを訪ね盛大な歓迎を受け大勢の臣下に囲まれて帰った。そこである奴隷女性が会堂で彼が座ってきた板切れをこれは奴隷女の息子が座っていたいた切れだと罵り乳水で洗い流した。その時臣下の一人が武器を忘れて取りに帰り、そのヴィタトゥーバ王子を罵る声を聞き、王子の出生の秘密を知った。彼がそれを軍隊で語ると大騒ぎとなった王子はそのことを知り恨みきっとシャカ族を皆殺しにしてやると誓った。その日の朝

その日の朝仏は世界を眺め親族が滅亡することをお知りになった仏は世界を眺め親族が滅亡してしまうのでシャカ族を愛護しておこうとカピラバーストゥ周辺の樹の下に座られた。王は、それを知り「尊師はなぜこのような暑い時にここに座っておられるのですか」とお尋ねした。仏は「親族の影は涼しいものです」と言われた王は仏が親族を愛護しておられることを知り攻撃を控えた。王は二度目も三度目も攻撃を控えた。そして四度目のときは仏は出かけることを控えられた。ヴィタトゥーバ王はついにシャカ族を滅ぼすと、その夜分に軍隊とともにアチラバティー川に着きそこで野営をした。そして眠ったその時大洪水が起こり王も軍隊もすべて海に流され魚と亀の餌食になってしまったと言う。

花輪を作る人が花園に入りすべての花を積もうとするように、あるものは花園のような五欲の中に入り色、声、味、触を楽しむ。欲と呼ばれる花を集めようとする彼らが心が執着しているこあいだに大洪水が人も家畜もそして村の全てを海に流し魚や亀の餌食にしてしまうように死に神によって命が絶たれ九界に沈む。

（ダンマパダ全詩解説　片山一良参照）

心の言葉

花と言う欲望の対象を摘むのに夢中になっている人を、死が洪水のように眠っているうちにさらっていく

お題目で成仏する十一

南無妙法蓮華経と唱える一大秘法の「妙法蓮華経」は、久遠の本仏釈尊が肉体煩悩に迷い苦しむ一切衆生の為に用意されていた全ての佛教のエッセンスです。中国の天台智者大師はこれを全ては一念から生まれまた宇宙の全ては一念に備わるという「一念三千」の原理として、法華経本門寿量品の深い文意より取り出された。

日蓮大聖人は、この天台の一念三千すなわち妙法を生きた宇宙大生命の姿であり原理であり命そのものであるとされました。この一念三千の本仏の命をそのまま「佛種」として信じ、南無妙法蓮華経と唱えれば、心に仏の種が植えられ、たちまち成仏してしまうという下種即脱の成佛観を立てられたのです。

「我等が己心の釈尊は永遠の昔に成仏した無始の古仏なり」（観心本尊抄意訳）

と日蓮聖人がお示しのように南無妙法蓮華経と唱えれば皆さんはもとより自分の心の中にまします本仏釈尊と一体の境地となり自らの一念、妙法に三千宇宙が備わることを悟ります。

「釈尊・多宝・十方の諸佛は、自分の心の中の仏なり。その跡を継いで、その功徳を受ける」。（観心本尊抄意訳）

とお示しのように、一切衆生は、御題目信じ唱え持つ信唱受持によって寿量御本佛の佛の位を相続し、その身そのままで仏となります。すなわち佛位相続即身成佛と言います。その信唱受持の行者は、霊験神秘の成仏を得て、成仏の証しとして、神秘奇跡に満ちた現世のせいかつを送ることが出来ます。

ここで、大切なのは、佛種である妙法蓮華経には、本仏釈尊の仏意である人類救済の大誓願含まれていると云う事です。私たちは本仏の御心を頂き人類救済、地上の浄土、天国の建設に貢献すべきです。